

第8回 北海道感染症対策有識者会議 議事録

日 時／令和5年12月25日（月）18:00～18:50

場 所／TKP札幌カンファレンスセンター

【濱坂 副知事】

ただ今から、第8回北海道感染症対策有識者会議を開催します。委員の皆様におかれましては、年末で何かとお忙しい中、ご出席いただいたことに感謝申し上げます。

それでは、知事からご挨拶を申し上げます。

【鈴木 知事】

年末の大変お忙しい中、皆様にはご出席をいただきありがとうございます。会議の開催に当たり一言ご挨拶申し上げます。

石井座長をはじめ、有識者の皆様には、本年6月の有識者会議設置以来、北海道の新型コロナウイルス感染症への対応を検証するにあたり、専門的知見から多くの貴重なご意見・ご助言をいただきました。多大なるご尽力をいただいたことに、改めて深く感謝申し上げます。皆様本当にありがとうございます。

この度の検証では、有識者の皆様をはじめ、道民の皆様、市町村や関係団体の皆様から、保健医療や社会経済活動における道の対応について、幅広くご意見を伺ってきました。

今般、こうした皆様のご意見や、コロナ禍で得た教訓を今後の感染症危機への対応に活かしていくため、新型コロナウイルス感染症への対応に関する検証報告の最終案を作成しました。本日の会議では、この最終案についてご議論をいただきますようお願いいたします。

今後、道では、本日のご議論も踏まえ、最終報告書を取りまとめ、新たな感染症予防計画に、検証結果を反映させるなど必要な対応を図ってまいります。

道としては、市町村や医療機関、関係団体等と一層密に連携して、平時からの備えを充実するなど、今後の感染症危機に万全を期してまいりますので、有識者の皆様には、引き続き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様これまでのご尽力に対しまして、改めてお礼を申し上げますとともに、有識者の皆様のますますのご活躍を心から祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

【濱坂 副知事】

大変申し訳ございませんが、知事はこの後用務がありますので、ここで退席させていただきます。

本日は、北海道市長会事務局長の出井浩義様が所用のため欠席されていることをご報告します。それでは早速議事に入りたいと思います。ここからの進行は、石井座長をお願いいたします。

【石井 座長】

それでは早速、議事を進めさせていただきます。

まず、北海道における新たな感染症危機への対応の方向性について、事務局より説明をお願い

します。

【三橋 部長】

皆様お疲れ様です。お手元に資料1と資料2をお配りしております。まずは資料1からご説明させていただきます。これまでの有識者会議での議論を踏まえて、この度、新たな感染症危機への方向性の最終案を取りまとめました。資料1は概要版としてご説明させていただきます。その後、資料2、最終案の本編の報告ということで、資料1、資料2と順にご説明したいと思います。

まず、資料1をご覧ください。1ページ目です。この資料は「対応の方向性」として、その考え方や具体的な対応をまとめたもので、これまでの会議でも説明していますので、本日は要点のみ説明いたします。

資料の中段、「検証及び対応の方向性」では、左側に「検証の実施」として、これまでの有識者会議をはじめとした意見聴取の経過を記載しています。その右側の「対応の方向性」ですが、「保健医療」、「社会経済活動」、「行政の対応」の3分野29項目にわたり、それぞれ取組実績、課題、今後の対応方向として整理してきたことを記載しています。

また、道の体制の方向性などについても、平時、初動、有事の3段階における考え方をまとめました。

資料下段の「具体的な取組」についてですが、先ほどの対応方向などについて、その内容に即して、大きく3つに分けて具体化していく考えを整理したものです。1つ目は、北海道感染症予防計画などへの反映、2つ目は、政府の行動計画を踏まえた道の行動計画の策定、3つ目は、新たな感染症が発生した場合など、今後、状況に応じて、国への要請を行うものとしています。

なお、2ページ目、3ページ目では、項目毎の対応の方向性について整理していますので申し添えます。

次に資料2、「北海道における新たな感染症危機への対応の方向性について（最終案）」について、概要を説明します。

まず、目次をお開きください。この最終案では、全体で第1章から第5章の章立てと、これまでの会議でお示した資料等による「基礎資料編」を加えた構成としました。

各章のポイントを説明します。3ページをご覧ください。第1章では、道内で新型コロナの感染が初めて確認された令和2年1月から、5類感染症に移行した令和5年5月までの感染状況の推移と、4ページ以降には、今回の検証で示した3つの時期における主な対応を整理しています。

次に7ページをお開きください。第2章では、流行期間における人口動態や経済等の状況について、会議で示した統計データを整理しています。

次に18ページをお開きください。第3章では、主な対策の振り返りとして、先ほど概要版で説明した「保健医療」、「社会経済活動」、「行政の対応」の3分野29項目のそれぞれについて、国・道の主な動きを時系列で整理しているほか、取組の背景・経過等を整理しています。

次に、76ページをお開きください。第4章では、市町村・関係団体等、道民の皆様のご意見として実施しました、アンケート調査や、事務局の職員が地域を訪れて伺ってきた意見等を整理しています。

次に106ページをお開きください。第5章では、「今後の対応の方向性」ということで、これまでの会議において、委員の皆様にご議論を重ねていただいた主な内容をまとめています。各項目では、「取組実績及び課題」と「有識者の皆様からのご意見」、これらを踏まえた「今後の対応

方向」を整理しています。

内容については、これまでの会議の中で有識者の皆様にご確認いただいているところですが、改めて、1カ所だけご説明させていただきますので、141ページをご覧ください。平時・初動・有事における留意点については、11月の第6回会議において、多くの委員の皆様から、平時の備えについて様々なご意見をいただきましたので、それらを踏まえて今後の対応方向を整理しています。

以上、概要で恐縮ですが、これまでの経過も含めてご説明させていただきました。これまで7回にわたり、それぞれご専門の立場から貴重なご意見をいただき「最終案」を取りまとめることができました。ありがとうございました。改めて厚くお礼申し上げます。事務局からの説明は以上です。

【石井 座長】

どうもありがとうございます。ポイントのみのご説明でしたが、これまで議論を重ねてきた点については、盛り込んでいただいたということと、事前に資料に目を通していただいているかと思しますので、ただ今の説明を踏まえて、この案を最終として取り扱うことをご了解をいただきたいと思いますがよろしいでしょうか。よろしいですか。それでは、今回ご提示いただいた案を最終案として整理させていただくということにさせていただければと思います。皆様方に貴重なご意見を積み重ねていただいて、ようやくここに至ったということですので、私の立場からも皆様にお礼を申し上げたいと思います。

委員の皆様には、新型コロナが5月に5類に移行されてからこの間、熱心に議論を積み重ねていただいたと思っております。本日の会議が検証の議論の最後の節目となりますので、委員の皆様からこれまでのコロナ対策を振り返った総括、今後の感染症対策において道に望むことなどについて、ご発言いただければと思います。

最初に、加藤委員からご発言をお願いします。

【老施協 加藤委員】

それではまず、今回、本当に我々から度重なる修正をお願いいたしまして、会議の回数も延長したというふうにお聞きしております。事務局の皆さんにご苦勞をおかけしたことについて、感謝申し上げます。

今回の報告書はⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期と分けてございますが、私どもの感覚で申し上げますと、まず、全くわからないウイルスが発生したということで、本当に素人感覚で言うと、知らないものに対する恐怖と、こういうものがまず我々の施設内における職員もみんなその恐怖感がいっぱいであったこのコロナの感覚でございました。

その恐怖から今度は、マスクですとか、消毒液ですとか、感染症の予防に対する防護服ですとか、そういうものが不足しているとか、要するに備えが至らなかった。こういう後悔というものがありません。

その後悔から、今度は、予防策をきちんとやってください、ワクチン接種をきちんとしてください、そうすれば、何とか凌げますよという、その希望が見えるというか、安心感に変わった、この3段階を経て今が来ているのではないかという、そんな印象を持っております。

先ほどありましたように平時の対策が重要だということは、物事に対して正しく理解をして平

時から備えを怠らない、こういう当たり前のことを改めて教えていただいた、このコロナの期間であったのかなと思います。

道庁においては、迅速にこの会議を立ち上げながら、我々を含め皆さん方の意見を聞き、行政として意見を聞きながら施策を実行するという、本当に危機の中、緊急事態の中で行政を執行されたのではないかなと思っております。

そこで今後のことについてですが、私どもの老人福祉施設協議会に加盟している600以上の施設は、郡部もございますし、離島もございます。そういった意味からは、各振興局を通じて、平時からの顔の見える体制を作るといのは本当に重要なことではないかと思っておりますので、ぜひ、道庁から、イニシアチブを取っていただいて、関係団体との連絡、そして顔の見える関係の構築に努めていただければと思っております。

結びになりますけれども、今回、施設の入所者の多くの方が亡くなったことも事実でございます。そういった意味では、このコロナによって亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、この最終報告案を、今後の感染症の拡大防止にぜひ役立てていただきたいと、このように切に思うところでございます。以上でございます。

【石井 座長】

どうもありがとうございます。続きまして、木下委員ご発言をお願いいたします。

【教育大学 木下委員】

これまでの取組を振り返りますと、やはり今、加藤委員からありましたとおり、このウイルスの発生につきましては、かつて経験したことがないというような感覚で捉えておりました、学校、それから各関係機関におきまして、手探りの中、最善を目指した取組が始まったと振り返っております。こうした中、知事のリーダーシップのもとで実施をされた緊急事態宣言は、新型コロナに対する道民の意識はもとより、全国の動きを変えるものとなったのではないかと考えているところです。

学校教育におきましては、やはり子供たちの心と体を大きく変えた事態になってしまったと、思っております。子供たちにとっては給食時間の黙食、あるいは一斉休業というようなことで、友達とのコミュニケーション機会が激減したというようなこと、それに代わってSNSやオンラインゲームの時間の大幅な増加ですとか、あるいは親御さんの在宅勤務による親子関係の変化、不登校の増加、虐待やマルトリートメントのような事態が発生していたと聞いているところでございます。

今年になり、5類移行になってからは学校教育が元に戻ってきた状況があつて大変望ましいことだと思っております。やはり最近報道されておりますけれども、インフルエンザの流行で同じ学級が幾度となく学級閉鎖の措置になるということで、各学校、管理職などに問い合わせてみると、やはり指導するスタッフの人数をやりくりして、何とか乗り切っているという学校も少なくないと聞いております。

このことに関わっては、学校だけではなくて、医療関係者の方はもとより、道職員や各自治体の職員の皆さん、あるいは企業の中にも、当直勤務とか、交代勤務という職に当たっておられる方々の今後の職場環境の整備ということを進めていく必要があると、すなわち、人員の確保というのは欠かせないことだと思っております。初動・有事に備えては、なかなか難しいことは承

知していますが、改めて人員を確保するという取組につきまして、北海道のお力添えをいただきたいと思っております。

また、学校におきましては、手洗い、うがいとともに、教室の換気タイムというようなことを徹底するなどして、インフルエンザあるいはコロナの対策ということで、足元の取組を再確認することが重要であると、私なりに考えたところでございます。

これまで意見を述べる機会をいただきましたことにお礼を申し上げまして、私の発言を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

【石井 座長】

どうもありがとうございます。続きまして、町村会の柴田委員お願いいたします。

【町村会 柴田委員】

この度まとめられたこの検証報告については、本当に必要なものが全部入っていると思っております。何よりも、この検証の前の3年以上にわたったコロナ禍において、様々にステージが変わる中で、司令塔になっておられた道の皆様には本当に心から敬意を表したいと思っておりますし、初動からずっと携わっている佐賀井対策監には本当にご苦労様でしたという思いで一杯であります。

総括ではありませんけれども、全てこの検証報告の中にも書いていただきました。自治体として、強いて言えば2点あります。一つは、今回の感染症の広がり方とそれに応じた対策の必要性は北海道ならではだと思っております。この3年間でも感染状況の地域差に応じた対策をとっていただきましたが、北海道の場合は特に都市部と地方で、感染状況にも違いが出るということを踏まえた対策を次のパンデミックでも、しっかりと捉えていただきたいという思いが一つであります。

それともう1点は、住民の方々に、この感染症を知っていただいて対策を徹底する上で、やはり身近な自治体として、市町村の役割というのは非常に重要だったと思っております。そんな中で非常に残念なのですが、特に小規模の町村においては、医療に関する組織、あるいは人材というものを全く有していない自治体もございます。しかしながら、住民の方々には、例えばウイルスや病気の特徴、あるいは感染した場合のリスク、さらには対策として求められたワクチンの効能やリスク、そういった情報を住民の方々は自治体に対して求めてまいります。そういった意味では国、道における情報を速やかに自治体においても共有できるように、しっかりと進めていただきたいと思っております。私からは以上でございます。

【石井 座長】

どうもありがとうございます。続きましてJA北海道中央会の柴田委員お願いいたします。

【JA中央会 柴田委員】

まずは、最終案の取りまとめにご尽力いただきました石井座長、それから濱坂副知事はじめ、道の関係職員の皆様に感謝申し上げます。お疲れ様でございます。

私も改めて、有事に向けた平時の備え、初動の重要性を再認識したところであります。このことに関しましては、道の体制整備の方向性の中で、最後までいろいろご意見を聞いていただきまして、よく取りまとめいただいたと受け止めております。また、今程のお話にありましたように、やはり道民への情報発信という観点も非常に重要だと考えてございますので、最終案のとお

り、年代により情報入手する手段に違いがあるということでございますので、多様なツールの活用による情報発信というものを、今後何かあった場合には望みたいと思います。簡単ですが私からは以上であります。ありがとうございます。

【石井 座長】

どうもありがとうございます。高橋委員お願いいたします。

【札幌大 高橋委員】

このようなまとめを作っていただいて、非常に素晴らしくまとめていただいたと思いますので、道の皆様方に心から感謝申し上げます。

特に多くの課題を明示していただいておりますけれども、いずれも横の連携を必要とするものが非常に多くございますので、とかく縦社会と言われるけれども、やはり災害でございますので、災害時にはとにかく縦を進めるよりも、横の連携を取って進めることがいいと、はっきり明示していただいておりますので、次の新興・再興感染症が発生したときに非常に役に立つ振り返りになるのではないかなと思っております。

それから、私が一番強調したいのは、特にコロナ対策本部ですが、長い間に人がいろいろ変わりましたけれども、非常に献身的に、朝から夜までといたしますか、24時間本当に本部機能としての最前線を担っていただいたわけですし、それから、私もクラスター対策ですとか感染対策研修で地方に行きましたけれども、その地方ごと、その地域で一生懸命やったださっている保健師さんとか、本当に広い範囲をカバーしてくださって、いろいろな問題、こんなことがあったということをいろいろお伺いしましたけれども、本当に本部の方、それから地域で一生懸命頑張っている方、ぜひスポットライトを当ててきていただきたいなと思うんですね。皆が頑張らなければ乗り越えていないわけですが、本当にそういう方達のご尽力に本当に頭が下がる思いであります。特に地域で、決して人員が多いわけではないところで頑張っていた方がたくさんいるということ強調したいと思います。

それから研修の継続といたしますか、今、実は道の方でも課題を踏まえて、感染対策の研修が必要ということで、予定を立ててくださっていますが、何回も申し上げますが、やはり「喉元過ぎれば」というところがどうしてもございます。しかし、忘れた頃にまたやってくるのが災害であり、新興・再興感染症でありますので、やはりこの感染対策の研修というものを、皆が忘れないように、いつでも厚くしておくといえますか、そういうように是非していただければと思いますし、そのために皆様方に素晴らしくまとめていただいたこの「まとめ」があるのではないかなと思っております。

いずれにしても、皆様方が本当に道民のために頑張ってくださったこと、それは本庁をはじめ振興局の方にも、近くで見てきた立場として本当に心から感謝したいと思っております。以上です。

【石井 座長】

どうもありがとうございます。田端委員お願いいたします。

【ラベンダー法律事務所 田端委員】

振り返って申しますと、この会議の前身の会議、令和2年8月に初回を迎えた前身の有識者会議から関わってまいりました。長い期間であったなと改めて思うのですが、会議以外にも日々の情報提供を本当にたくさんいただいてまいりまして、道のご尽力いかばかりであったかということも改めて思います。感謝申し上げます。

今回の取りまとめにつきましてお願いしたいのは、是非、今後、活かしていくこと、このとおり進めていくことを重ねてお願いいたします。

また、今後のことですけれども、コロナが終わったということで、生活が戻ったという風潮はありますけれども、まだ社会への影響が拭えないものはありまして、被害を受けた方、また前の生活に戻れていない方というのもやはりいらっしゃるわけで、道におかれてはそういった方への支援であったり、行き届く目を引き続きお願いしたいと思います。以上でございます。

【石井 座長】

どうもありがとうございます。水野委員お願いいたします。

【道経連 水野委員】

今回で取りまとめということでございますが、今年6月から始まりました本会議の半年間、さらに遡れば今、田端先生からございましたけれども、前身の「新型コロナウイルス感染症対策有識者会議」から、2020年6月から始まってございますので約3年半、石井座長はじめ、委員の先生の皆様、また、事務局の皆様の長きに渡るご尽力に対しまして、敬意と感謝を申し上げる次第でございます。ありがとうございました。

最後ということで、これまで関係する経済8団体を代表して述べさせていただいた意見の趣旨を改めて申し上げたいと思います。

これまで大きく2点のことを申し上げてまいりました。一つは「経済への悪影響の回避」ということ、もう一つは「地域の実情を踏まえた道としての役割」ということでございます。

まず「経済への悪影響の回避」につきましては、これまで行動制限をできるだけ避けるということをお願いいたしまして、結果として「行動制限ありき」ではなく、「道民生活や道内経済への影響が最小となるように」との表現で、取りまとめでいただきましたことに感謝申し上げます。

言うまでもなく、「人の生命と健康」は何より重要なテーマでございます。一方で、地域社会が存続して人が安心安全で健康に暮らすためには、持続的な経済成長が不可欠でございます。とりわけ北海道のように広域分散で人口減少が全国よりも10年早く進んでいる地域におきましては、経済が縮小し続けてしまつては、それぞれの地域の人々の生活や健康を支える雇用ですとか、インフラ、仕組み等が立ち行かなくなる可能性がございます。

コロナ禍の行動制限によって道内の実質GDPが1兆円も減少してしまったというのは、単に稼ぎが減ったということではなくて、地域社会や道民の生活健康を支える基盤に深刻なダメージを受けたと理解してございます。そうした事態は可能な限り避けていただきたい、そういう趣旨でこれまで発言して参りましたという点について、改めてご理解を頂戴できればありがたいと思います。

次に「道としての役割」ということでございます。各地域が混乱しないように、国が明確に基

準を示すべきという議論自体はそのとおりだと思っております。

ただ一方で、現場に近いのは都道府県であり市町村でございます。国の目の行き届かないところについて、国にしっかり訴えつつも、地域の特性、現場実態に即してタイムリーに判断・対応していくということこそが、道の役割ではないかと思っております。

不遜な言い回しになり大変恐縮でございますが、ぜひ今回の一連の経験を踏まえて、その点について改めて受けとめていただければ幸いです。

最後になりますが、多くの委員の皆様がおっしゃっていただきましたし、先般、要望活動で道議会自民党の方にお邪魔した折にも同様のお話を伺いましたけれども、今回せつかく取りまとめた内容をこれで終わりにするのではなく、後々まで残しておくこと、道民の安全安心に向けて、平時からの準備を整えるとともに、次に何か起きた際の速やかな対応に繋げていく、是非そのようお願いしたいと申し上げまして、結びといたします。私から以上でございます。

【石井 座長】

どうもありがとうございます。続きまして、三戸委員ご発言お願いいたします。

【医師会 三戸委員】

北海道医師会の三戸でございます。この度は有識者会議で様々な職種の委員の先生方から意見をいただきまして、幅広い視野からこのような形でまとめていただいたことに感謝いたします。

私の方からは保健医療分野について様々な意見を述べさせていただきましたが、道と医師会と、あるいは医療関係者の間で、このウイルスが様々な変異する中で、対応をやはり変えていかなければならない、そして道においては、広域であるために、なかなか対策が難しいことや、医療関係者自体も数少ないので、かなり温度差があって大変なところもありましたけれども、我々の方からいろいろな要望を出したり、あるいは道と一緒に対策を検討してきました。それに対して、このような形でまとめていただいたことに感謝いたします。

これからのことに関しましては、まとめた内容を利用して専門家、医療の関係の医師だけではなく、看護師さんとか様々な職種の方々からの意見や、この有識者会議の資料を参考にして、新たな医療の対策について今検討して、医療計画に反映するような形をとっています。これからも新興・再興感染症が起こることは十分考えられますので、この意見を有意義に生かしながら新たな対策、それがこれからの医療計画の中に入ってきますので、それをこれからの新たに対策をとる先生方あるいは道庁としても、参考にして取り組んでいただけたらありがたいと思っています。以上です。

【石井 座長】

どうもありがとうございます。最後になりますが、和田委員、ご発言をお願いします。

【連合北海道 和田委員】

労働組合の立場からもお礼を申し上げたいと思います。北海道は特に地域性からいって全国的にも非常に難しくて厳しい地域だったというふうに認識をしています。情報の伝達をはじめ、地域性の問題もあったでしょう、そうした中で今回、道が対応してきた内容について、そして道の職員の皆さんのご尽力、本当に心から敬意を表したいと思っております。

既に内容については網羅をされているので、一言申し上げるということだけで終わらせていただきたいと思いますのですけれども、まずは確実な計画への反映と、それから国への要望、これをしっかりやっていくということが大事だろうと思っています。

ひとつあえて申し上げるということになりますけれども、1500の道民意識調査、40%以上の回収率ということですが、それから179の自治体への調査、これについては既に皆さん承知されている内容だと思うのですが、やはり我々が見ていかなければいけないのは、概ね評価をされている数字が出てきています。70から90というような数字が出てきています。しかし見ていかなければならないのはネガティブなファクター、そこをしっかりと拾っていくことが、やはり我々の役割でもあるというふうに思います。

人は人事異動で動いていきます。このように皆さんが議論されたこと、貴重な材料がしっかりと引き継がれていくということとあわせて、今回のこの材料の中で出てきた、いわゆる調査の内容についてのネガティブなファクターをしっかりと拾っていくということ、あえて最後に一言申し上げておきたいと思えます。

本当にご苦勞なされた皆さんに、感謝を申し上げたいということで、私の意見とさせていただきます。ありがとうございました。

【石井 座長】

オブザーバーで参加いただいた札幌市からも一言お願いします。

【札幌市 佐藤課長】

札幌市危機管理局感染症対策担当課長の佐藤でございます。本日は発言の機会をいただきありがとうございます。まず、道内の市町村を代表しまして、今回の検証に当たって市町村アンケートを実施していただき、市町村の意見をしっかりと反映いただいたことについて、代表して改めて感謝を申し上げたいと思えます。ありがとうございます。

この間のコロナ対応にあたりましては、北海道の皆様を中心に、市町村としても連携しながら取組を進めてきたところだったと思えますけれども、やはり市町村の立場でいきますと、道の担当部の皆様からの情報提供だとか、事前の協議調整だとか、そういったところをしっかりとやっていただいて、関係性を作っていただいたことは非常にありがたかったと思っておりますし、その中で特にコロナ指揮室の皆様においては、その関係作り、ご尽力いただき、そしてご配慮いただいたこと、非常にありがたかったと思っております。この場を借りて改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

将来の感染症対応に向けては、札幌市でも今、検証の取りまとめを進めておりまして、それも踏まえながら今、道とも連携しながら感染症の予防計画策定に向けて進めさせていただいているところです。

ただ、この予防計画、そしてこのあと具体的な対応に対しては行動計画だとか、そういったところを策定していくということになりますけれども、そこでも道の皆様ともしっかり連携しながら北海道全体をどのように守っていくかというところに取り組んでいけたらと思っておりますので、引き続きお力添えいただけたらと思っております。

最後になりますけれども、有識者会議の委員の皆様におかれましては、この間、非常に有益な議論をいただいてきました。道内の市町村に対しても色々ご配慮いただけるような発言もたく

さんしていただいて、その結果、こういった検証結果が取りまとめられたのかなと思います。今後また感染症、インフルエンザもありますし、様々な感染症がまだまだ続いていくと思いますので、札幌市含め、道内市町村に対しても、様々な形でお力添えを引き続きいただけたらと思っております。色々ご配慮いただいたこと、皆様にも改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。ちょっと長くなりましたけれども、今後ともどうか引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【石井 座長】

ありがとうございました。それぞれのお立場から様々なご意見をいただきました。いずれにしても今後に活かすお話かと思っておりますので、改めて御礼申し上げたいと思います。私の方からも一言最後にということですので、委員として発言をさせていただきます。今回、短い期間でございましたが、改めて新型コロナ対応に対する検証ということで、この新しい会議を発足させていただき、議論させていただきましたが、単なる過去を振り返るということに捉われず、今後、何をどう活かしていくかということを中心に議論をさせていただいたということについて、ある意味で一番そこが重要なポイントだったのではないかと思います。委員の皆様のご協力、ご示唆があってそういう取りまとめにできたのではないか思っておりますので、そのことについても改めて感謝申し上げたいと思います。

大変、変な言い方ですけども、未知のウイルスへの対応というのが、まさに経験していないことが起こりうるということの学習だったということです。ある意味では今回とまた違う形で、新たなウイルスの危機が訪れるということでもございますので、未知のことに対してどう対応するかということの学習が一番重要なポイントだったのではないかと、要はこれをやれば大丈夫だということはあるようで、多分ないという変な言い方ですけども、きちんとまとめていてこれ自体は十分意味があるのですけれど、そうは言っても、多分違うシチュエーションが起こってどう対応するかということになるときに、何を活かせるかがポイントになると思いますので、ある種そこはノウハウとして道の皆さんが感じたことを次世代に引き継いでいただくことが重要かなと思っておりますのでよろしく願いしたいと思っております。

それと田端委員からもご発言がありましたが、まだコロナによって負の影響を受けた方々がおられること、私もその部分は忘れてはいけないと思います。もっと大きく言うと以前も議論させていただきましたが、大きな人口構造の問題としてはやはり少子化が実は今年もまだ止まっていないということで、場合によっては来年70万を切るところまで日本の出生数が減るのではないかなというような流れ。要するに子供を産むことへの大きなためらいと言いますか、そういったものはいろんな要素があったと思いますが、やはりコロナの影響という側面が強いと考えていただく必要があって、この部分は何度も申し上げたとおり、道だけの対応でどうこうなることではないのですけれども、やはりそれぞれの地域ベースの問題としても捉えていただいて、対応すべきこと、やるべきことというようなことを改めて引き継いで、引き続きご検討いただいて対応を考えていただく。やはり人口の問題は、短期的にはいろんなシステムの問題にも関わりますし、将来的には地域の存続、発展に最も影響する側面だというようなことがございますので、是非、そのことについては引き続きご対応をお願いしたいと思っております。私の方からは以上になります。

道側から、何か補足することがございましたらと思っておりますがいかがでございましょうか。よろしいですか。それでは今日の議事進行については、これで全てということでございますので、重

ねてでございますが、長期間にわたりまして委員の皆様には、ご協力いただいたことを心より感謝申し上げます。この会議を終わらせていただきたいと思います。それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。

【濱坂 副知事】

ありがとうございました。石井座長をはじめ、委員の皆様におかれましては、これまで半年の間、それぞれのご専門の立場からご議論をいただいたことに、心から感謝を申し上げます。

本日は、最終案についてご了承いただきました。これまでの振り返りや、今後について、ご発言をいただいたことに重ねてお礼を申し上げます。本日もたくさんの貴重なご意見をいただきました。平時の備え、役割分担、横の連携、情報発信、経済への対応などたくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。

道として、この「今後の対応の方向性」を踏まえながら、感染症予防計画や行動計画の策定など、新たな感染症危機に備え、この検証をどのように活かしていくか、しっかりと考えながら取組を進めてまいりますので、引き続きお力添えをよろしく願いいたします。皆様には心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。